

伊那地方の方言 ― 特色、使用、及び将来

松本大学松商短期大学部 中村純子

1. はじめに

方言の共通語化が叫ばれて久しい。しかし、長野県民の方言に寄せる思いは並々ならぬものがある。NHKの各放送局で1999年から2000年まで、視聴者から「21世紀に残したいふるさとのことば」を手紙、はがき、インターネットなどで募集した。柴田(2001)によると、2年間で延べ7万5千語が集まったという。応募数1位の県は1万882件の応募があった長野県であり、2位の福島県の8851件を圧倒している。投稿数の多かった長野県の方言は以下である。

1位 ごしたい、ごしてえ(119)【とても疲れる、疲れた、つらく苦しい状態】

2位 ずく(63)【精を出すこと】

3位 もうらしい(61)【哀れみ、同情し救う心根】

4位 いかず(49)【行こう、行く】 4位 そうずら(49)【そうですね】

6位 おやげない、おやげねえ(48)【かわいそう、おきのどく】

()は投稿数 【 】は共通語訳 下線は伊那地方でも使用する方言 以下同じ

さらに、NHK放送文化研究所(柴田実)(2005)において「10のお国ことば」として取り上げられたことばは以下である。

ずく みやましい【かいがいしく働く】 はあるかぶり【ひさしぶり】

いかず おかたしけ【心から、本当に】 てきない【疲れた】

ごしたい ~ずら しょうしい【はずかしい】

おつかい【夕方以降のあいさつ】

このように方言に強い関心を寄せる長野県にあって、伊那地方の方言は年配者だけ

でなく若者、Uターン者によっても使用されている。本講座では、伊那地方の方言の特色、及び若者、Uターン者の方言使用と方言意識を明らかにし、最後に伊那地方の方言の将来について考える。

2．伊那地方の方言の特色

2 - 1．長野県の方言区画と伊那地方の方言の位置

長野県の方言は下記の5つの区画に分かれる【地図1参照】。

- A：奥信濃（姫川流域の小谷地方と千曲川流域のいわゆる岳北一帯の地）
- B：北信（上・下高井、上・下水内の大部分及び更埴の北部の地）
- C：東信（南・北佐久、上田、小県、及び更埴の南部一帯）
- D：中信（諏訪・上伊那（南部を除く）、南・北安曇、東筑摩の大部分の地方）
- E：南信（下伊那、木曾及び上伊那の南部）



地図1.【長野県の方言区画】

青木千代吉・馬瀬良雄氏説 馬瀬（1992）

（<http://www.geocities.jp/jtohkai/sub.65-1.htm>）より
作図 太線部：上伊那地方・下伊那地方

伊那地方は上伊那地方と下伊那地方に分かれる【地図1太線部参照】。馬瀬（1992：448）により「方言の上では、南信地方を1つの方言地域として一括するには、無理があり、諏訪地方と上伊那大田切以北の方言は、中信方言に、大田切以南の方言は、木曾鳥居峠以南の方言とともに南信方言に入れるのがよいと思われる。なお、駒ヶ根市は、天竜川の西の地域は南信方言に属するが、東の地域つまり中沢や東伊那の地域は中信方言に属する」とされている。つまり伊那地方の方言は中信方言すなわち東日本の方言から南信方言すなわち西日本の方言への漸移的性格を持っていると言える。

馬瀬（1980：3-4）に伊那地方上伊那郡辰野町上辰野小沢幸彦氏（昭和2年生まれ）の方言意識が記述されている。氏は「今住んでいる辰野の町ことばと伊那市辺のこと

ばとそんなに違うという気はしないが、赤穂（駒ヶ根市に属する）へ行くと言葉が違うという感じが強くなる。伊那谷も南へ下だるにつれ、飯田のことばに近くなり、次第に関西的なにおいがしてくる。ことばが優しくなるのだ。」と述べており、まさに伊那地方が東日本方言から西日本方言への漸移地帯ということを裏付けている。

2 - 2 . 中信方言と南信方言の方言比較

本節ではテキスト方言訳を通して中信方言と南信方言の比較を行い、その特徴を記述する。場面 は明治生まれの被験者のテキスト訳（【表 1】参照）、場面 は昭和 30 年代、40 年代生まれの被験者のテキスト訳（【表 2】参照）である。

場面 おじいさん A が知り合いのおじいさんの家を訪ねる。あいにく相手は留守で、対応に出たのはおばあさん B。

テキスト 共通語

A : (おじいさん) 今日は。お暑うございます。

B : (おばあさん) あらあら、これはお久しぶりで。どうぞお上がりくださいませ。
ほんとうにお暑いことですね。

A : (おじいさん) おじいさんはおられるかね。

B : (おばあさん) 今、ちょっと畑に行っていますが、じきに帰って来るとしよから、お寄りになってお待ちください。

表 1 . 【中信方言と南信方言との比較 明治生まれ】

中信方言（伊那市富県）	南信方言（中川村葛島）
A : コンチワ。アツイナエ。	A : ゴメンナンシヨ。エレー オアツ
B : アレアレ、コリヤー ハールカブリデ。サー マー ア㊦ットクレヤレ。フントニ アツイ コトダナエ。	B : ハレ マー、コリヤー ハールカブリデ。ドーゾ オア㊦リテ オクンナンシヨ。フントニ オアツイ コトダナーシ。
A : オジーサマー イルカエ。	A : オジーマー オイデルカナ。
B : イマ、チョット ハタエ a イッテル㊦、ジキ ケーッテ クルラデ、ヨッテ マッテテ オクレヤレ。	B : イマ チョット ハター a イットルケード、モー ジキ ケーツテクルンズラニ、オア㊦リテ オマチトクンナンシヨヤレ。

馬瀬 1980 : 41 より一部抜粋、一部改。伊那市富県は明治39年生まれ、中川村葛島は明治37年生まれの話者の方言訳【翻訳日1968 1974年頃】。㊦：鼻音

場面 友人Aが友人Bを飲みに行こうと誘う場面

テキスト 共通語

A： 、ちょっと、飲みに行かない？

B：仕事から帰ってきたばかりだから、あとでいい？

A：それなら、ちょっと休んだら、メールくれない？ 駅前の で待ってるから。

B：そう。それじゃ、あとでね。

A：車、だめだよ。

B：わかっているよ。大丈夫。

表2.【中信方言と南信方言との比較 昭和生まれ】

中信方言（伊那市西町）	南信方言（駒ヶ根市東町）
A： 、チョット、ノミニ bイカ <u>ン</u> ？	A： 、チョット、ノミニ bイカ <u>ン</u> ケ？
B：イマ、シゴトカラ カエツテキタバカリダモンデ、アトデ イイ（カヤ）？	B：イマ、シゴトカラ カエツテキタバカリダデ、アトデ イイケ？
A：ホイジャー、チョット ヤスンダラ、メール bク <u>レ</u> ン？エキマエノデ aマツ <u>テ</u> ルデ。	A：ホイジャー、チョット ヤスンダラ、メール クレヤ？ エキマエノデ aマツ <u>テ</u> ルデ。
B：（ホーカイ）、ホンジャー（アトデナエ）	B：ホーケ、ホンジャ アトデナ。
A：クルマ、ダメダニ。	A：クルマ、ダメダニ。
B：aワカ <u>ツ</u> テルヨ、ダイジ <u>ョ</u> ーダ。	B：aワカ <u>ツ</u> トルデ、ダイジ <u>ョ</u> ーダ。

伊那市は47歳の活躍層の女性方言訳（翻訳日2016.3）駒ヶ根市は57歳の活躍層の男性方言訳（翻訳日2015.12）詳しい被験者の生育歴は表4参照。

以上のテキスト方言訳から伊那地方の方言には、以下のような東日本方言、西日本方言的特色があることが分かる。

特色1．敬語表現：中信方言に比しての南信方言の敬語表現の多彩さ（表1の下線部参照）馬瀬（2003：30-49、1980）。一般に敬語表現は西日本方言のほうが多彩と言われている。下記の例を見ても明らかである。南信方言は主に親しみを表す表現、中信方言は主に敬意を表す表現が使われている。

伊那市富県【中信】

アツイナエ、～エ：念を押し、感嘆する意味を表す。軽い敬意と親愛の気持ちをこめる。近所の対等の人に使う。

中川村葛島【南信】

オアツクアリマスナーシ、～アリマス：丁寧さを表す補助動詞　～ナーシ：念を押し、余情をこめて、敬意を表す。

伊那市富県【中信】

アツクレヤレ、～ヤレ：親愛の気持ちを含む。

中川村葛島【南信】

オアリテ オクナンシヨ、オ～オクナンシヨ：高い敬意を持つ依頼表現。

伊那市富県【中信】

イルカエ：既出

中川村葛島【南信】

オイデルカナ、～ナ：文末で聞き手に対して敬う気持ちと情感をこめて同等以上に用いる。

伊那市富県【中信】

ヨツテ マツテテ オクレヤレ：既出。

中川村葛島【南信】

オアリテ オマチトクナンシヨヤレ、オ～オ～クナンシヨ：高い敬意を持つ依頼表現。

特色2．音韻：南信方言、中信方言とも東日本方言的で母音の融合が起こる。

ai ee ae ee (番号は表1の番号に対応する。)

えらい erai エレー eree

帰って kaette ケーテ keette 畑へ hatae ハテー hatee

特色3．語法：否定の助動詞、ナイ（東日本方言的）とン（西日本方言的）は南信も中信モンが使用されている。一方、補助動詞、イル（東日本方言的）は中信で、オル（西日本方言的）は南信で使用されていた。（a、bは表1、2に対応する。）

(東日本方言的)

ナイ：イカナイ

イル{テル}: a イッテル

a マッテル・a ワカッテル

(西日本方言的)

ン：b イカン・b クレン

オル{トル}: a イットル

a マットル・a ワカットル

以上、敬語表現に関しては伊那地方の南に行くほど西日本的方言の性格を帯び、多彩となること、音韻に関しては伊那地方は東日本方言的、語法に関しては敬語表現と同様、南に行くほど西日本的方言の性格が色濃いことが分かる。まさに伊那地方の方言は東日本、西日本方言の漸移地帯的性格を持つことが明らかになった。

3．若者の方言意識と方言使用

それでは、伊那地方の現在の若者の方言意識と方言使用はどのようになっているのだろうか。以下の要領で伊那の若者の調査を行った。

3 - 1．調査の概要

調査日時：2015年12月～2016年3月

調査方法：アンケート調査 追加インタビュー

調査対象者：松本大学松商短期大学部2年生及び1年生

上伊那、下伊那に短期大学部に入学するまで居住歴がある女性7名【例外若女E】¹⁾

以後、若女と略す。(地図2、地図3参照)

地図2．【上伊那地方の調査対象者分布】

- A：若女A（辰野町）
- B：若女B（南箕輪村）
- C：若女C（伊那市）西箕輪
- D：若女D（伊那市）美篤
- E：若女E（伊那市）高遠
- F：若女F（伊那市）西春近



地図3 .【下伊那地方の調査対象者分布】

G : 若女G (飯田市)



3 - 2 . 若い女性の方言調査結果

以下が短期大学の学生、女性7名の調査結果である。

1) 誰に使うか(表3参照)

家族(よく使う 4名、たまに使う 2名、あまり使わない 1名)

中学時代の友人(よく使う 4名、たまに使う 2名、あまり使わない 1名)

2) 大学で方言を使用しているか(追加インタビュー)

若女A: わりと使っている。普通に「ぼろっ」と出る。方言が出ると長野市の子からは「出た、出た～」と言われる。

若女B: 分からない。いつも通りに話している。他の学生は方言を使っている。長野の学生が使う「～するしない?」は驚いた。

若女C: 使っている。仲のよいクラスメートが同じ地域の学生なので。でも他の地域の人も使う。

若女D: 使っている。周りも使っている。長野の人の「～するしない?」はするの、しないのが分からなかった。

若女E: クラスメートとも自然に使っている。周りも方言を使う。

若女F: 使っている。周りも使っている。聞いてびっくりしたり、使いたいと思った方言は長野の「～するしない?」

若女G: 使っている。というより、出ていると思う。松本の方言「行くだ」のよな方言は驚いた。

3) 語彙調査(表3参照)

語彙調査 中学時代の友人との会話で当該語彙を何というか。()内は使用人数、複数回答可。

行くでしょ? 行くら (7名)

寒いんでしょ 寒いら (6名)/寒いんだら (3名)

疲れた ごしたい (3名)/えらい (1名)/疲れた (4名)

かわいそう かわいそう (7名) おやげない、もごっちは使わない

語彙調査 家族や同じ地域の友人との会話で当該語彙を使用するか。()内は使用人数。(表3参照)

そうだに (6名) ずくがある (7名) 家のまえで (7名)

いただきました (6名) 寒いで (5名) 食べん (7名)

はあるかぶり (2名) 食べらし (2名) みやましい (0名)

4) 方言を残したいか(表3参照)

若女A: 残したい。昔から使っていたものがなくなるのは寂しい。「(だ)に」残ってほしい。

若女B: 残したい。使いやすいから。他の人はしゃべっていないので、おもしろい。

若女C: 残っていいと思う。

若女D: 残したい。その地域にしかないから。他と違い、自慢できるもの。

若女E: 残したい。それぞれの地域ごとの特徴がなくなったらつまらない。正座の意味のおつんぼなど、かわいい。

若女F: みんな使っているし、残っていいと思う。

若女G: 残したい。人から飯田の方言がかわいい、面白い、と言われる。自分の生まれたところの証し。もう少し年齢があがったら「ずら」を使うことも許されるかなと思う。

5) これからの方言使用(追加インタビュー)

若女A: 時と場合による。お客さんには共通語。同僚とは方言を使うかも。

若女B: 親しい人とは話す。仕事では使わない。敬語としては使えない。

若女C: 仕事では使わない。サービス業で就職するので、ちゃんと話したい。

若女D: 仕事では使わない。方言だとなれなれしい。敬語だと方言は出てこない。

若女E: 就職先が伊那なので、使うと思う。

若女F: 仕事では目上の人、お客さん、会議などでは標準語。職場の周りが方言なら方言を使う。

若女G: 東京に出るので、方言は使わない。

3 - 3 . 調査のまとめ

伊那地方の調査対象者の学生をみると、対家族、対友人【中学時代】には7名中6名が「よく使う」、「たまに使う」と答えており、「あまり使わない」と答えたのは1名だけである。さらに、語彙調査でその「あまり使わない」と答えた学生も方言を使用していることが分かり、全体的に伊那地方の若い女性は方言を使用しているといえる。「大学で方言を使用しているか」という問いでも6名が明確に「使っている」と答えている。理由を聞くと、「周りも使っており、自然と出てしまっている」という答えが多い。一方で、「就職してからの職場での使用は控える」としており、方言と共通語を場に応じて使用しようとしていることが分かる。

方言意識では全員が方言を「好きで、残したい」と答えていた。伊那地方の学生は方言に対して愛着を持っていることが分かる。

語彙ごとにみると、ナヤシ方言の特徴である「ずら_レ」「ら」のうち、「ら」は健在で、さらに「だら」が新しい方言形として加わっている(中村、1999 参照)。「ずく」は長野県全域に分布するものであるが、この地域でもまだ健在だといえる。また、若い女性がよく使う「に_レ」方言助詞「で」も使用されていた。気づかれにくい方言(沖 1995、1999)と考えられる「まえで_レ」「いただきました_レ」威信形「食べ_ん」(中村 1996 参照)なども使用されている。一方、命令形の「たべら_レ」「はあるかぶり_レ」「おやげない_レ」「もごっちない_レ」「みやましい」などの俚言は近く姿を消す可能性が高いと思われる。「ごしたい」に関しては、「21 世紀に残したいふるさとのことば」1 位ではあるが、使用人数は3名で、消滅してしまう可能性もある。

4 . U ターン者の方言意識と方言使用

本節では、U ターン者の方言意識と使用について記す。現在、ひとつの場所に生まれ、育ち、教育を受け、就職をし、生活する、いわゆる生え抜きの方言話者は少ないと思われる。U ターン者の方言意識と方言使用を記述することは方言使用の実態を知るうえで重要なことである。

4 - 1 . U ターン者の言語生育歴

調査概要は以下である。

調査日時：2015 年 12 月～2016 年 3 月

調査方法：アンケート調査 追加インタビュー

調査対象者：中信方言地域、南信方言地域に生まれ育ち、Uターン歴のある活躍層の男女。それぞれU活女、U活男と略す。被験者の生育歴は表4参照。

表4.【Uターン者の言語生育歴】

U活女（伊那市）47歳		U活男（駒ヶ根市）57歳	
居住地	年齢	居住地	年齢
伊那市	0 - 18	駒ヶ根市	0 - 18
東京、神奈川	18 - 21	奈良県	18 - 30
イギリス	21 - 22	スペイン	20、26 - 28
伊那市	22 - 27	飯田市	30 - 31
イギリス	27 - 30	駒ヶ根市	31 - 57
伊那市	30 - 37		
イギリス	37 - 40		
伊那市	40 - 47		

4 - 2 . U活女・U活男方言使用

以下、Uターン者の語彙調査の結果と、どんな時に方言を使うかを調査した結果を記す。

1) 使用が見られなかった調査語彙（表5参照）

寒いんずら（U活男のみ使用）、はあるかぶり（U活男のみ使用）、食べらし（U活女のみ使用）、おやげない、もごっちない、みやましい（使用みられず）

2) どんな時に方言を使うか（追加インタビュー）

U活女：伊那市の職場ではわざと方言を使っていた。そのほうがコミュニケーションがとりやすい。自分と距離をとる人がいたので、「よそ者ではありません」ということを分かってもらうために方言を使用していた。

U活男：仕事ではお客様に身近に思ってもらうために意識して使っている。主に年配の方とかにだが、若い人でも地域の人だとすると使用する。

3) 方言を残していきたいか（表5参照）

両者：好きで残したい。

4 - 3 . まとめ

Uターン者の方言使用語彙は若い女性の調査対象者の方言使用語彙とあまり相違がみられなかった。「おやげない」、「もごっちない」、「みやましい」などの語彙に関しては、若い女性の調査対象者同様、Uターン者も使用していなかった。また男女とも、方言

を地元の人との距離を縮めるために意図的に使用していることが分かった。方言を残していきたいという意識は両名とも強い。

5．伊那地方の方言の体力

5 - 1．方言の体力測定

それでは、伊那地方の方言は共通語化のどの“段階”なのだろうか。ユネスコは2009年に世界の消滅危機に瀕した言語を発表した。それは下記の6段階の「言語・方言の消滅の危機の度合い」に基づいており、日本ではアイヌ語が「極めて危険」、八重山語、与那国語などが「重大な危険」とされている。(木部 2013)

安泰　脆弱　危険　重大な危険　極めて危険　消滅

この段階は「言語の活力と危機」を測る9つの指標で判断された。伊那地方の方言はこの指標に照らすと、どうなのだろうか。9つの指標の中で、特に重要だと思われる2つの2つに照らしてみる²⁾。

言語がどの程度次の世代に伝承されているか

- 5 子どもたちを含むすべての世代で使用されている。
- 4 すべての子どもたちが、一定の限られた場面で使用している。
- 3 親の世代以上で使用されており、子どもたちは使用していない。
- 2 祖父母の世代以上で使用されており、親、子の世代は使用していない。
- 1 曾祖父母以上の世代で使用されており、ほとんどの話者は使用していない。
- 0 言語を使用するものはいない。

伊那地方の方言は、若い世代の学生が友人【中学、大学】、家族に使用しているが、仕事場などでは使用しない、つまり限られた場面での使用なので、4の段階だと思われる。

伝統的な場面以外で新たに言語が使用されている場面はどの程度あるか

- 5 新たに生活に加わったどんな場面でも使用されている(テレビ放送など)。
- 4 新たに生活に加わったほとんどの場面で使用されている。
- 3 新たに生活に加わった一定の場面で使用されている。

- 2 新たに生活に加わったいくつかの場面で使用されている。
- 1 新たに生活に加わった場面ではほとんど使用されていない。
- 0 新たに生活に加わった場面では使用されていない。

伊那地方の方言はSNSの方言スタンプ（参考資料参照）他新たに生活に加わったいくつかの場面（井上・大橋他 2013）での使用が認められるため、2の段階ではないかと思われる。

5 - 2 . 伊那地方の方言の体力

以上のことをまとめると、伊那地方の方言は以下の5点から、体力はまだ残されていると思われる。

- ・若者の一定場面での方言使用（語彙によっては消失）
- ・新しい場面での使用（SNSなど）
- ・「に」、「で」などの方言助詞、気づかれにくい方言「いただきました」、「まえで」、新しい方言形「だら」、威信形「ん」などの隆盛
- ・ふるさとのことばを残したいという若い方言話者を含む県民の意識
- ・Uターン者の方言の意図的使用

6 . まとめ及び方言の将来

伊那地方の方言は、現在でも南信方言、中信方言の漸移地帯的性格を持っていることが活躍層のUターン者のテキスト訳でも確かめられた。また、若年層及び活躍層のUターン者による方言使用も認められた。語彙によっては消滅に瀕しているものもあったが、若女Gが述べた「もう少し年齢があがったら『ずら』を使うことも許されるかなと思う」(P.10)ということばから、またUターン者の方言使用から、年齢を重ねると方言に回帰する方言話者がいることも考えられる。さらに若年層、活躍層の両者とも「方言を残していきたい」と考えていることから、これからも伊那地方の方言は保持されるものと思われる。ユネスコの基準に照らしても、この地方の方言はまだ体力を残していると言えよう。

【注】

- 1) 若女Eは松本で育ったが、両親共に伊那市高遠の出身で、就職も伊那市となっているため、被験者の一人に加えた。
- 2) 他の7つの指標は以下である。 母語話者数 コミュニティ全体に占める話者の割合 どのような場面で言語が使用されているか 教育に利用される言語資料(書記法)がどの程度あるか 国の言語政策(明示的、非明示的態度を問わず) コミュニティ内での言語に対する態度 言語記述の量と質。
木部(2013)より、UNESCO Ad Hoc Expert Group on Endangered Languages (2003) *Language Vitality and Endangerment*. Document submitted to the International Expert Meeting on UNESCO Programme Safeguarding of Endangered Languages, Paris, March 10-12.2003 から『危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業報告書』山田真寛訳からの引用である。

【参考文献】

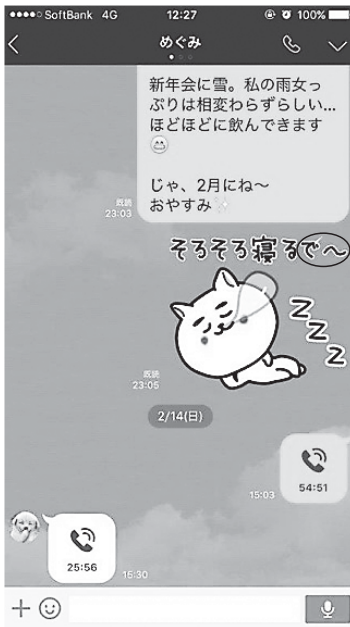
- 井上史雄・大橋敦夫他(2013)『魅せる方言 地域語の底力』三省堂
- NHK放送文化研究所(柴田実)(2005)『NHK 21世紀に残したいふるさと日本
のことば 中部地方』学習研究社
- 沖 裕子(1995)『『気づかれにくい方言』の隆盛と俚言使用の二相化』『言語』
第24巻第13号 大修館書店
- 沖 裕子(1999)『気がつきにくい方言』『日本語学』臨時増刊号 第18巻第13号
明治書院
- 木部暢子(2013)『じゃって方言なおもしとか』岩波書店
- 柴田 実(2001)『『21世紀に残したいふるさとの言葉』の記録』NHK放送文化
調査研究年報(46) 日本放送協会放送文化研究所編
- 中村純子(1996)『伊那方言における方言保持の男女差』『日本語研究』第16号
東京都立大学 国語学研究室
- 中村純子(1999)『上伊那における推量助動詞 ダラの分布』『ことばの研究』
第10号 長野県ことばの会会誌
- 馬瀬良雄(1980)『長野県上伊那誌民俗篇下』上伊那誌刊行会

馬瀬良雄（1992）『長野県史 方言編』 社団法人長野県史刊行会

馬瀬良雄（2003）『『信州のことば』 21 世紀への文化遺産』 信濃毎日新聞

【参考資料】 新しい場面での使用例

【SNS の実際の使用例】



【方言スタンプ例】



表 3. 【伊那地方・若い女性方言調査結果一覧】 若女 E (生育松本・両親伊那高遠出身)

項目	調査対象者	若女 A (辰野町)	若女 B (南箕輪村)	若女 C (伊那)西箕輪	若女 D (伊那)美簷	若女 E (伊那)高遠	若女 F (伊那)西春近	若女 G (飯田)
対家族		たまに使う	あまり使わない	たまに使う	よく使う	よく使う	よく使う	よく使う
対友人【中学時代】		たまに使う	あまり使わない	たまに使う	よく使う	よく使う	よく使う	よく使う
行くでしよ?		行くら	行くら	行くら	行くら	行くら	行くら	行くら
寒いんでしよ		寒いら	寒いらんだら	寒いら	寒いら	寒いら寒いら	寒いら	寒いら寒いら
疲れた		ごしたい	つかれた	つかれた	ごしたい	つかれたごしたい	つかれた	えらい
かわいそう		かわいそう	かわいそう	かわいそう	かわいそう	かわいそう	かわいそう	かわいそう
そうだに(そうだよ)								
ずくがある(気力がある)								
家のまえで(前で)								
いただきます(ごちそうさま)								
寒いで(寒いから)								
食べん(食べない)								
はあるかぶり(ひさしぶり)			×	×				
食べらし(食べなさい)								×
みやまし(かいがいしく働く)		×	×	×	×	×	×	×
方言を残したいか		残したい	残したい	残したい	残したい	残したい	残したい	残したい
好きな語彙		ごしたい	あまり知ら	~だら		ずく	《いただきます》	どびっこ、 ~に、~だ ら、《~ずら》
《残したい語彙》		《ごしたい》	ないが好き			《おつんぼ》 圧座		

注 語彙調査 該当語彙を何というか 語彙調査 該当語彙を使うか 使う 聞いたことはあるが、使わない
 × 聞いたこともないし、使わない

表 5. 【伊那地方・Uターン活躍層の男女方言調査結果一覧】

	調査対象者	U活女H (伊那市)	U活男1 (駒ヶ根市)
使用	対家族	よく使う	よく使う
	対友人【中学時代】	たまに使う	よく使う
語彙調査	行くでしょ?_?	行くら / 行くでしょ	行くら / 行くんだら
	寒いんでしょ	寒いんだら	寒いんだら / 寒いら / 寒いんすら
	疲れた	ごしたい	ごしたい / えらかった
	かわいそう	えらいことだね	かわいそう
	そうだに (そうだよ)		
語彙調査	ずくがある (気力がある)		
	家のまえでで (前で)		
	いただきました (ごちそうさま)		
	寒いで (寒いから)		
	食べん (食べない)		
意識	はあるかぶり (ひさしぶり)		
	食べらし (食べなさい)		×
	みやましい (かいがいしく働く)	×	×
	方言を残したいか	残したい	残したい
	好きな語彙 《残したい語彙》	ごしたい (リンゴがほける、ずく)	リンゴがほける

注 語彙調査 該当語彙を何というか 語彙調査 該当語彙を使うか 使う 聞いたことはあるが、使わない
 ×聞いたこともないし、使わない